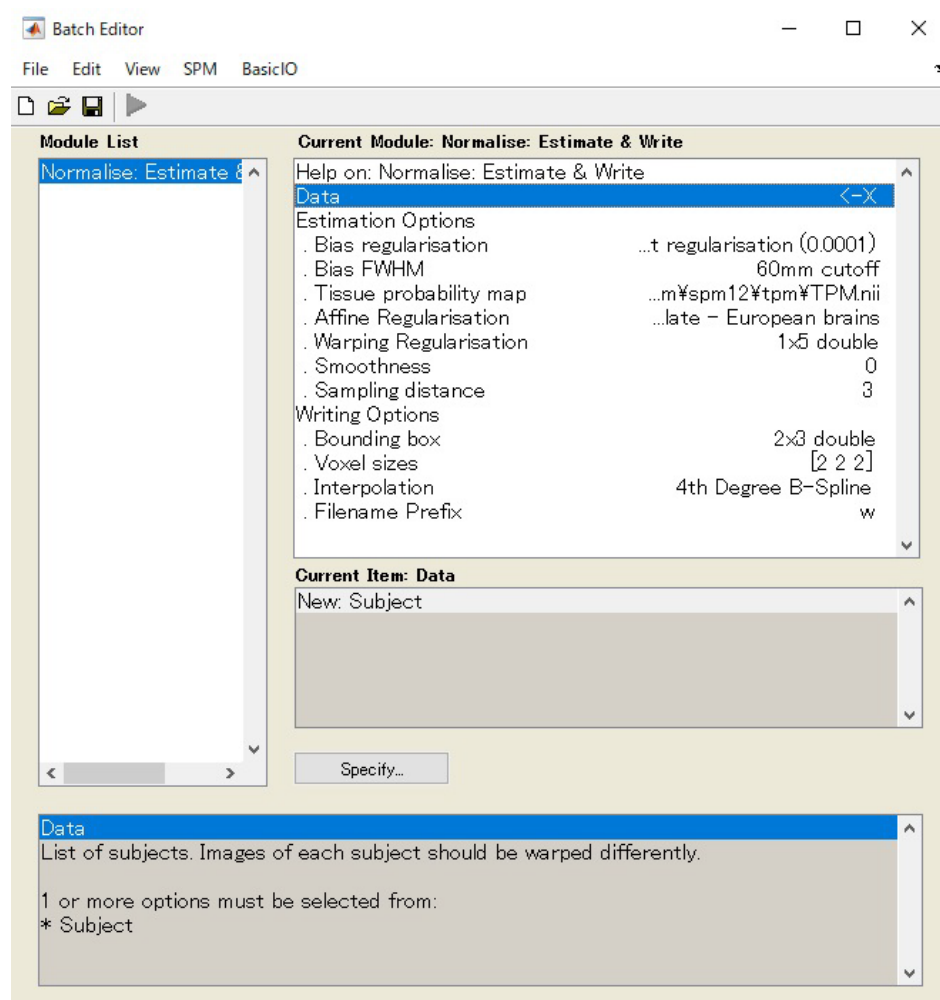
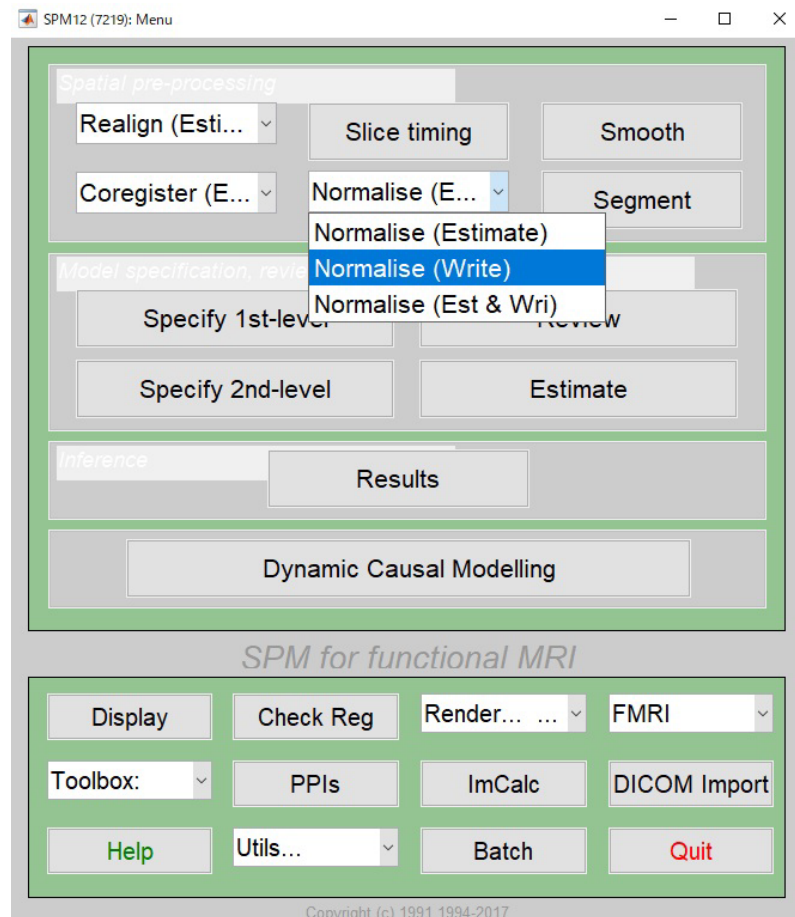




# Normalization

大人数の脳画像から作成された標準脳テンプレートに個人の脳データを当てはめることで、集団解析を可能にする

Normalise (Write)を選択してBatch Editor立ち上げ



DataをダブルクリックしてSubject欄を作成

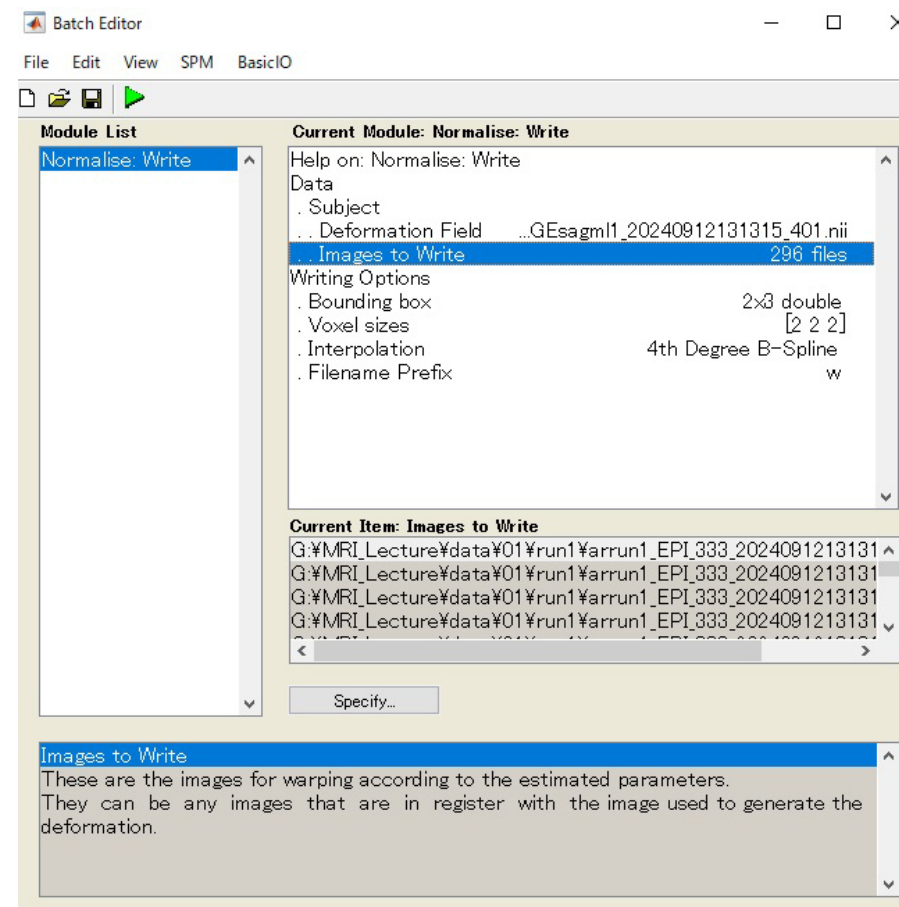
Deformation Fieldに、セグメンテーションで作成されたy\_のつく構造画像を選択

Images to Writeに、run1とrun2のarで始まるすべての機能画像を選択

すべての画像の選択のしかたはリアラインメントや  
スライスタイミング補正と同様の方法

実行してDoneを待つ

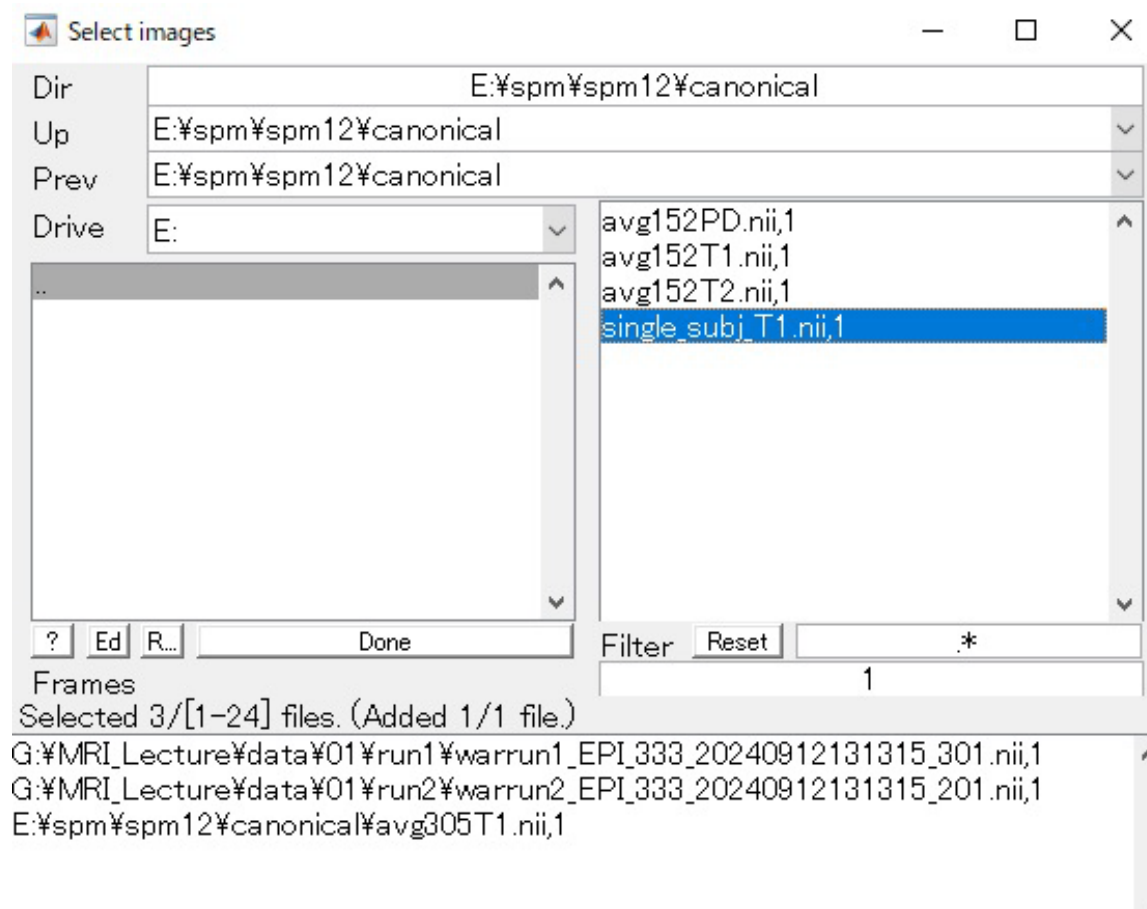
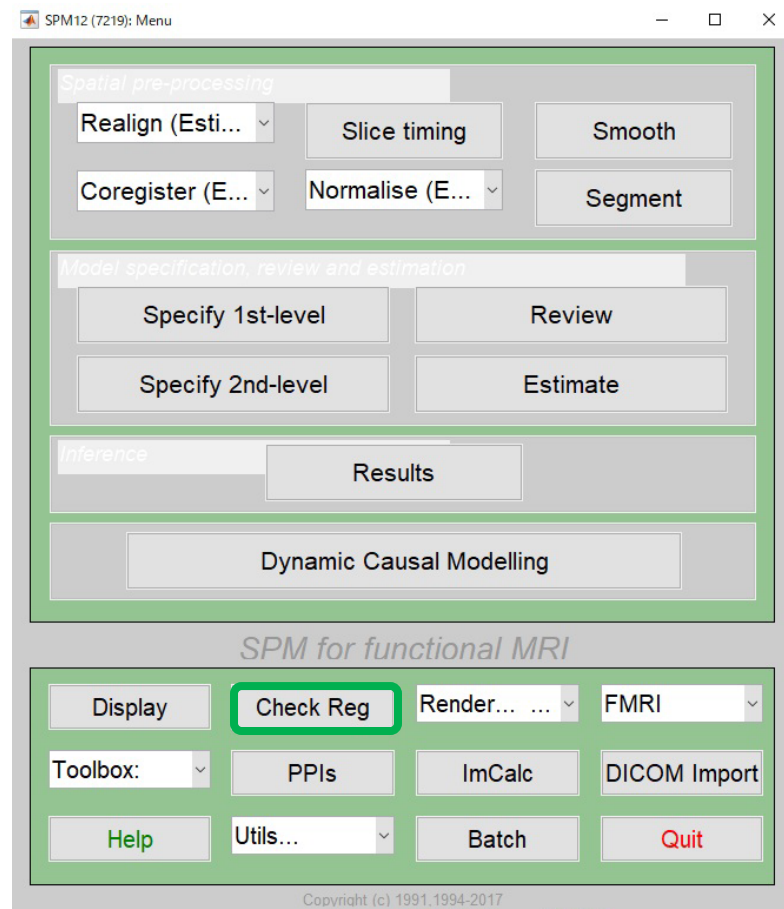
空間標準化処理が完了した.niiは  
ファイル名の先頭にwがつく



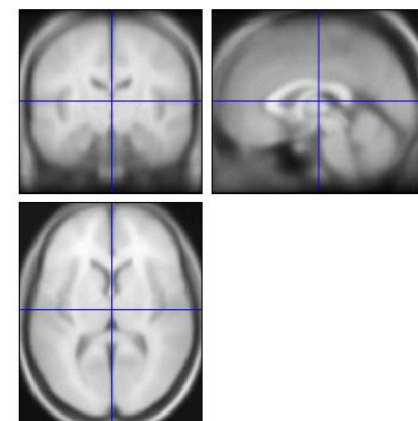
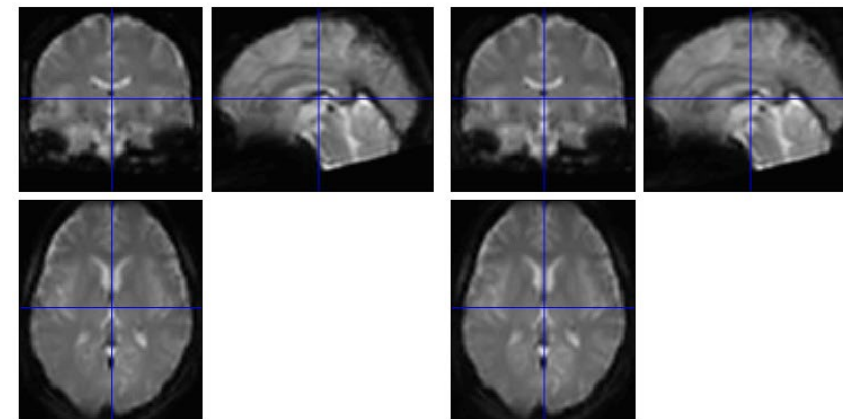
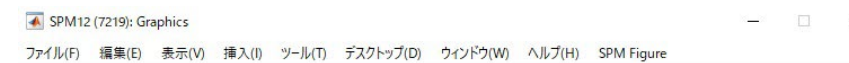
SPMメニューのCheck Regを押す

Select imagesに、空間標準化でできたwarのつく機能画像(run1とrun2の2つ分)を選択

SPM12のあるディレクトリー下の、canonicalからavg305T1.niiを選択してDone



青十字を動かして、だいたい対応しているか  
確認しておこう



問い合わせ

**CogNAC事務局**  
**cognac-office@grp.tohoku.ac.jp**

作成・編集

応用認知神経科学センター・助教 田邊 亜澄  
応用認知神経科学センター・学術研究員 大方 翔貴  
応用認知神経科学センター・助教 DING Yi

